

## 特集2：褥瘡（じょくそう）考察

日本リハビリテーション工学協会／全国頸髄損傷者連絡会

### 第5回 合同シンポジウム「生活のなかでの褥瘡」その向き合い方

5月22日（日）、東京都練馬区立・産業プラザコネリホールを会場に、日本リハビリテーション工学協会と全国頸髄損傷者連絡会「第5回合同シンポジウム『生活のなかでの褥瘡』その向き合い方」を開催しました。

シンポジストは、シーティングに関わるエンジニア、頸髄損傷者、医療職、リハ職、といった多職種からの報告があり、生活の中での褥瘡の予防や多職種連携の重要性とその課題について熱く議論がかわされました。参加者数は会員（リハ工学協会・全国頸髄損傷者連絡会）36名、一般56名、介助者、実行委員、展示7団体を含むと170名ほどで、広い会場も狭く感じるほどの熱気で終始、多くの意見が交わされました。



多くの参加者がありました

日本リハビリテーション工学協会・全国頸髄損傷者連絡会との合同シンポジウムも5回目を迎え、東京・神戸・大阪で開催し、地方格差、外出、住環境など毎回違ったテーマで開催し多くの参加者と学習や意見交換をしてきました。

今回のテーマは「褥瘡」であり、頸髄損傷者の生活に支障のする合併症であり、大変な思いをした頸髄損傷者も少なくありません。私もそのひとりでもあります。

今回のシンポジウムでは褥瘡経験のある当事者、エンジニア、医療関係者、リハ専門職、と多様な立

東京頸髄損傷者連絡会 事務局長 麴澤 孝場の方から褥瘡について発表、意見をいただきました。「生活」をキーワードに日常生活、就労、余暇活動など生活のリズムを崩すことなく「予防・治す」ことをキーワードに生活に直結し、これからの毎日にとっても役立つ議論になりました。



Skype で参加の大阪頸損連絡会 赤尾さん

当事者とエンジニア、医療福祉関係者が同じ目線で、ひとつのテーマについて議論でき、大きな成果を上げることが出来ました。今回のシンポジウムが褥瘡やシーティングだけでなく医学的、工学的な技術がよりいっそう発展する契機になればと思います。

参加いただいた皆さま、発表いただいた方、実行委員、出展者の皆さん、本当にありがとうございました。

#### 出展協力いただいた業者・団体（順不同）

- ・パシフィックサプライ 株式会社
- ・株式会社 ユーキトレーディング
- ・チャレンジ・ド・フェスティバル
- ・株式会社 モリトー
- ・セコム 株式会社
- ・アビリーティーズケアネット 株式会社
- ・日本ウイール・チェアー 株式会社